

Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然史博物館の計画推進のため、市民とともに普及交流活動、展示、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2015.12 No.63 発行・札幌市博物館活動センター

<http://www.city.sapporo.jp/museum/> 公式ホームページからPDF版(カラー)をご覧になれます。

大地のぬくもり 泥炭(でいたん)

北海道の家には煙突がある、それだけで本州から来た観光客には「異文化」に感じられます。家中をぽかぽかにしてくれるストーブは今も昔も北海道の生活に欠かせないものです。だからこそ、世代を越えた共通の話題にもなります。そこで、スタッフに子供の頃にどんなストーブを使っていたか聞いてみると、「泥炭を燃やすと、他にはない何とも言えないぬくもりがあった」という話が出ました。昭和30年代後半ごろの話だそうです。当時はまだ灯油ではなく石炭や薪を燃やすストーブが主流でした。ただ、薪と石炭は今も利用していますが、日本では泥炭は時代が進むにつれて消えていった燃料です。

泥炭という漢字と、燃えることから想像して、石炭に近いものなのか?と思うかもしれませんが、枯れた植物が元になっていることは同じですが、石炭のように硬い石のようにはなっていません。北半球で泥炭のできやすい場所は夏も涼しい地域の湿った土地です。ですから日本一泥炭地が多いのは北海道です。水で満たされた地中は酸素が少なく、枯れ草を腐らせる微生物の活動が弱いため、分解されて完全に目に見えない形にならず、いわば“食べ残された枯れ草”が折り重なってたまることで泥炭となります。今は宅地やアスファルトで覆い隠されていますが、昔は札幌の一部にも泥炭の地面がむきだしのまま広がっていました。つまり、ストーブの燃料が誰でもすぐに入るところにあったということです。特に第二次世界大戦中～戦後は値段が安い泥炭が多く使われ、泥炭用ストーブも出回ったそうです。現在の手稲本町2条4丁目には、掘り起こした泥炭をレンガほどの大きさのブロックにして乾かす工場がありました。その他



泥炭用ストーブ
(イラスト:山崎真実)



泥炭(乾燥したもの):植物の根や繊維がみえる。

に泥炭を掘った跡がわかるのは、北区篠路町～丘珠付近の原野に残る長方形の穴や泥炭地から水を抜くための溝です。そして、泥炭ストーブのぬくもりを知る人々の記憶もまた、泥炭と人の関わりを教えてくれる“証拠”といえるかもしれません。(山崎)

※工場跡は残っていません。採掘跡は私有地等のため見学できません。

※泥炭用ストーブは道立の北海道博物館に收藏されています。

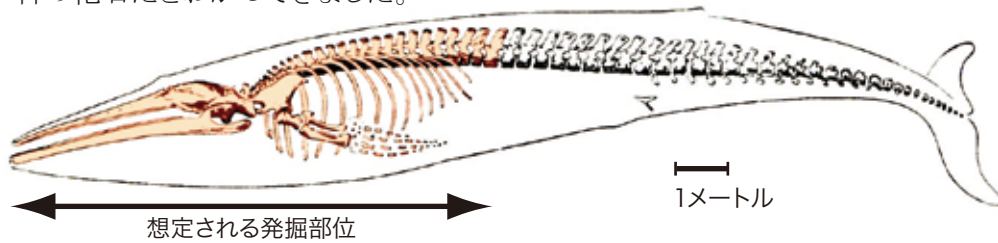
引用・参考資料

手稲区役所ホームページ「手稲区史跡ガイドホームページ北軽川草炭工場跡」「手稲でみつけた手稲のはなし10.地球が燃えている」(2015年11月17日確認)
「ストーブ博物館」(新穂栄蔵著、北海道大学図書刊行会、1986年)

寄贈いただいた月形町産クジラ化石が

新聞で紹介されました!

作間博寿氏からご寄贈いただいた化石です。2011年に「歩こう!札幌の地形と地質」の著者である前田寿嗣氏(現・市立藤野中学校校長)が月形町の地質調査中に発見しました。化石クリーニング体験中に小学生が割った部分から、あごの骨が見え、その大きさから体長は推定18~20mで、世界的にも注目されるナガスクジラ科の化石だとわかってきました。



行事ミニレポート★

サイエンス・フォーラムinさっぽろ(9月、10月)

第35回「北海道農業に託す夢—その現在と将来—」

第36回「札幌の地形4万年史—支笏火山の大噴火と札幌扇状地—」

35回の大田原氏(北大名誉教授)のお話しでは、北海道でお米がとれるようになるまでの研究の苦労や、農林業の現場での必要性が生んだ携帯の特許技術など幅広いお話しでした。

36回の前田氏(市立藤野中学校校長)のお話しでは、支笏火山の噴火でできた札幌軟石を全員に配って実物を観察したり、空を飛びながら支笏湖から札幌の地形を見ているかのような自作の動画が好評でした。

(35回:2015年9月26日、36回:10月24日開催)



河川敷の牧草地。遠くに札幌の工場等が見える。



石山緑地は札幌軟石です。写真提供:前田寿嗣氏

ホット
コラム

展示室につき

小さな常連さんたちのゲーム開発

展示室には小さな常連さんがたくさんやってきます。石や化石好きの3兄弟は毎週のように、あちこちで拾ってきた様々な石を古沢学芸員に鑑定してもらいに来ています。

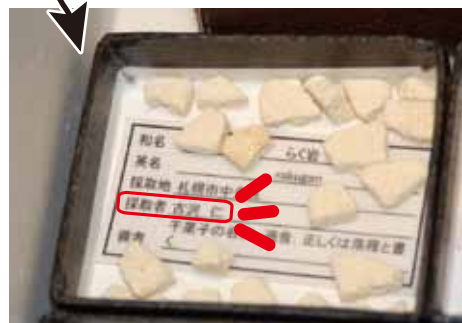
しかしある日、古沢学芸員が野外へ出かけていて鑑定ができない残念な日がありました。楽しみにしていただろうにと私も残念な気持ちになっていましたが、3兄弟は「古沢さんがいないなら古沢さん衰弱やろう!」などと話しています。すごくおもしろそうなので、どのようなゲームなのか聞いてみると、「古沢さん衰弱」とは古沢学芸員が衰弱しているわけではなく、古沢学芸員が採取した展示物を二つ見つけるという、トランプの神経衰弱をまねたゲームでした。

ラベルは展示物に付いているものですが、採取者の名前はほとんどのお客さんが気にも留めないものです。しかし、3人は目ざとく標本採取者の欄から古沢学芸員の名前を見つけていたのです。

このように、何度も遊びに来ている子供たちは、時に長年働いている職員でも思いもつかない発想で展示室を楽しんでいます。(松橋)



引き出し展示の中に・・・



特集 札幌の自然と人・街

防風林

札幌の自然にまつわるモノ・コトの中から

1つのテーマを取り上げて特集します。

●農業のために

防風林は農地や農作物を守るためのものです。石狩平野は風が強いので、数kmにもなる幅の広い幹線防風林が多く作られました。防風林は風をやわらげるだけでなく、日陰を作ることによって気温や地温の上昇を防いだり、土が風で吹き上がりにくくする効果がありました。昭和30年代頃までは秋になると屯田防風林をはさんで東側はイネの金色、西側は大根の葉の緑色が広がる光景が見られたそうです。



●自然と人工の間に

札幌市を含め石狩平野に残る防風林ではオオウバユリの群生が見られたり、チョウジソウなどの絶滅のおそれのある植物の生育地環境が残っていたりする場所もあります。自然の林を残して作った部分もありますが、木が倒れると、人間がシラカンバやポプラなどを植えて林を維持してきました。

●動物の通り道

リスやキツネなど街の近くにも現れる動物にとって、防風林は安全な通り道にもなります。食べられる実がなるヤマグワなどは、鳥のフンの中に入っていたタネから育ったものだろうとされています。動物が植物を運んでくるのです。このように人の手を借りずに維持されるには、防風林の中や近くに自然のまま残された林があることが重要だとわかってきました。



写真提供 チョウジソウ:加藤ゆき恵氏(釧路市立博物館)/オオウバユリ:塚田友二氏・真理子氏/エゾクロテン:市民

参考文献

札幌市北区役所ホームページ「エピソード・北区 第4章:川と並木 34. 屯田防風林とともに生きる人たち」(2015年11月18日確認)
/ 矢部和夫ほか 1998. 札幌市における都市化が緑地の植物相に与えた影響. ランドスケープ研究61:571-576. / 塚田友二 2002. 北海道石狩平野における幹線防風林の天然更新と植生構造の多様性.(東京都立大学理学研究科卒業論文)

学芸員の活動紹介

トークイベント 「ウミベオロジー」で語る!

海辺で学問(〜logy)する専門家数人の対談。海がない札幌市で海の生き物の化石が発見される理由を古沢学芸員(古生物学)が解説。研究中の南区小金湯産7ジラ化石の大きさに会場からどよめきが起こりました。

主催 石狩市 (平成27年10月3日実施)



写真提供:いしかり砂丘の風資料館



番組に出演!

NHK「ブラタモリ#22札幌」

古沢学芸員が扇状地の地形や湧水の流れの痕跡を解説。札幌が短期間で大きくなった街だけに、自然の地形に合わせて作られた人工物が、今となっては逆に「不自然に見える」というおもしろさがあります。みなさんの周りでも探してみてください。(平成27年11月7日放送)

豊平川の化石紹介!

NHKBSプレミアム「川紀行 豊平川」

川の説明をするのに札幌が海だった800万年前の時代にさかのぼりました。サッポロカイギュウ化石発見者の棚橋愛子さんも発見時の驚きを語りました。(平成27年11月3日放送)



移転・一時休館のおしらせ

2016年4月から豊平区平岸に移転します。

- ・現住所でのご利用は12月26日(土)までとなります。
- ・その後、移転作業のため、平成27年12月29日～平成28年3月31日は一般のご利用を休みとさせていただきます。
- ・移転先では、平成28年4月1日(予定)に利用を再開します。今後よろしくお願い致します。

移転先住所 〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6

交通案内 ・地下鉄南北線「澄川駅」東出口

・北出口から徒歩8分、または「南平岸駅」東出口から徒歩14分。

札幌市博物館活動センターご案内



ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

【開館時間】10時～17時 【入館料】無料 【休館日】日・月曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

※移転のため休館:平成27年12月29日～平成28年3月31日

【住所】〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ5階 ※平成28年3月末まで

【電話】011-200-5002 【FAX】011-200-5003 ※平成28年3月末まで

【E-mail】museum@city.sapporo.jp



■札幌駅前地下歩行空間から徒歩約15分。

■公共交通機関をご利用ください。地下鉄東西線「西11丁目」4番出口から徒歩5分。/市電「西8丁目」または「中央区役所前」から徒歩8分。/バス「北1条西7丁目」から徒歩3分。

編集後記

学生の頃、湿地の調査中に泥炭採掘跡の溝にうっかり足を滑らせて落ちました。浅いと思っていたら足がつかず、そのまま沈没かと焦りました。(晩秋でしたが、腰から下はずぶぬれのまま調査続行。)でも、このことで溝は1m以上の深さがあると身をもって知り、昔の人が泥炭採掘に大きな労力をかけていたことを知ったのでした。(ヤ)

大 累計来館者数 **100,050**人
(2015年11月末現在)



ミューズレターは、再生紙および植物油インキを使用しています。



さっぽろ市
02-J02-15-1032
27-2-688